

なし園におけるハダニ類の在来天敵の発生

1. 試験のねらい

交信攪乱剤（コンフューザーN）を設置したなし園で、ハダニ類およびその在来天敵の種類や発生活長を調査し、なし栽培におけるハダニ類の有力な天敵を明らかにする。

2. 試験方法

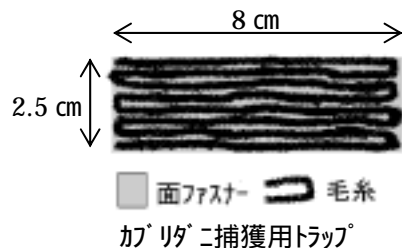
(1) 試験場所：農業試験場なし園

(2) 調査方法：各樹任意の 100 葉に寄生するハダニ類雌成虫数および天敵数を 1 週間間隔で調査した。

面積	調査樹	調査期間
32a	豊水、4樹	H12.6.13～9.18
32a	幸水、8樹	H13.6.1～9.27
16a	豊水、6樹	H14.6.11～9.26

また、上記の調査期間および平成 15 年 5 月から 10 月にカブリダニトラップを設置した。トラップは 1 樹あたり 10 個を 2 週間間隔で設置し、設置 1 週間後に回収した。トラップで採集したカブリダニ類のうち雌成虫については、プレパラートを作製して種の同定を行った。

なお、各年ともコンフューザーN は 10a あたり 150～200 本設置した。



3. 試験結果および考察

- (1) 平成 12 年の調査では、7 月中旬から 8 月にかけてハダニ類が増加したが、これに伴ってカブリダニ類、ハダニアザミウマおよびハダニタマバエが発生し、これらの在来天敵の働きにより 8 月 28 日以降はハダニ類の密度が急激に減少した（図-1A）。
- (2) 平成 13 年の調査では、全般的にハダニ類の発生は少なかったが、ハダニ類が認められた 8 月から 9 月にかけて、カブリダニ類およびハダニタマバエが確認された（図-1B）。
- (3) 平成 14 年の調査では、ハダニ類が増加した 7 月中下旬にカブリダニ類、ハダニアザミウマおよびハダニタマバエが確認され、カブリダニ類については 9 月以降も確認された（図-1C）。
- (4) 場内で採集したカブリダニ類は、ハダニ類が多発した平成 12 年および平成 15 年はミヤコカブリダニが優占種であった。平成 13 年、14 年については、ミチノクカブリダニの発生が多かった（図-2）。

4. 成果の要約

なし園ではハダニ類の在来天敵としてカブリダニ類、ハダニアザミウマおよびハダニタマバエが発生しており、ハダニ類の密度を抑制している。特に、その中ではミヤコカブリダニの発生量が多く、ハダニ類の有力な天敵であると考えられた。

（担当者 環境技術部 病理昆虫研究室 宮睦子）

なし園におけるハダニ類の在来天敵の発生

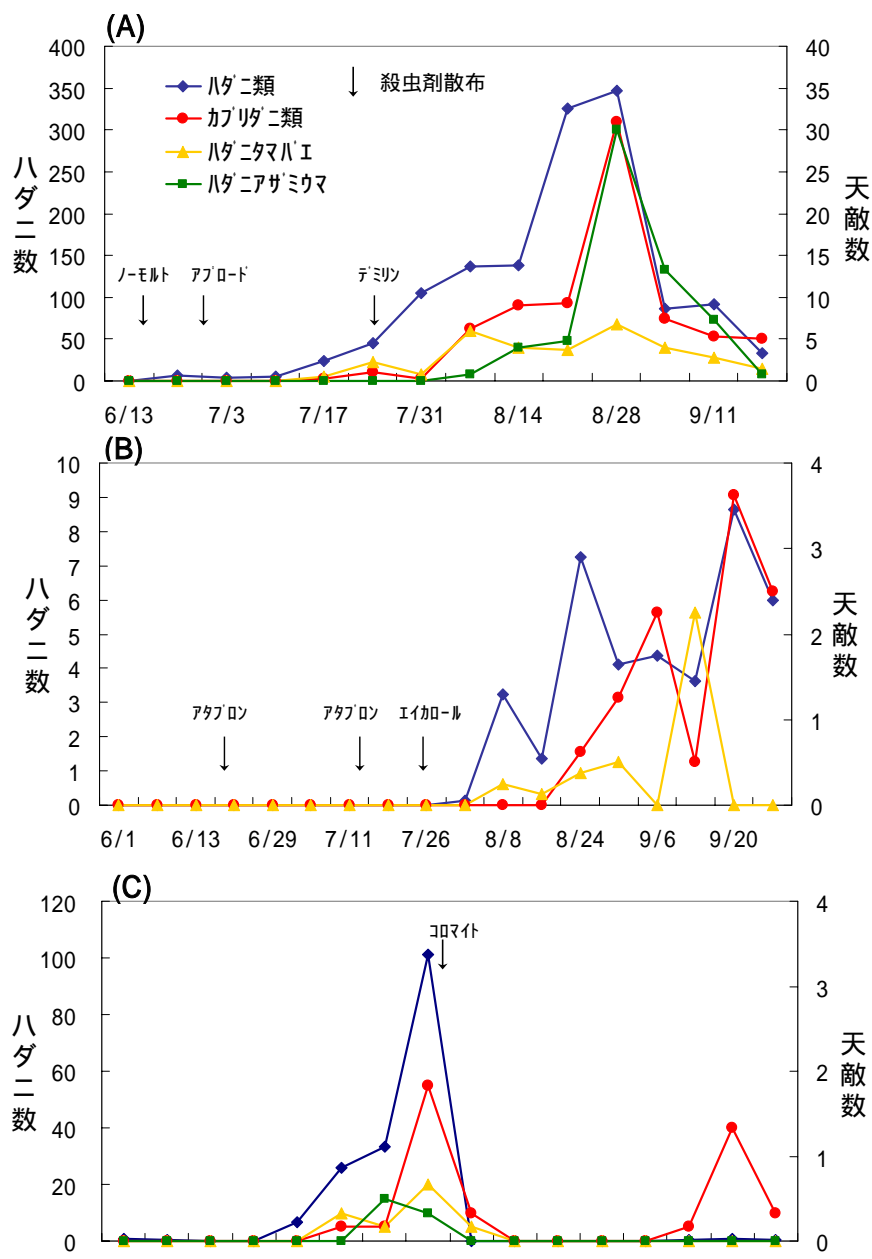


図 - 1 場内なし園におけるハダニ類およびその天敵の発生活長 (A:平成12年、B:平成13年、C:平成14年)

注: 100葉あたりの虫数を示した

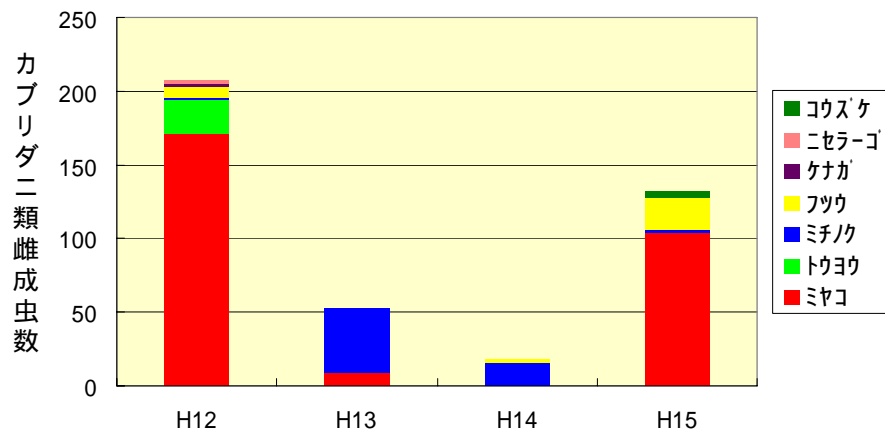


図 - 2 場内なし園におけるカブリダニ類の種構成